

平賀源内にルーツを見る

# YAMASA の万歩計

ウォーキング人口が増えている昨今、「万歩計」、「歩数計」の種類も多種多様化している。4大機能といわれている「歩数」、「距離」、「カロリー消費量」、「時計」の機能が付いているモノはもちろん、ゲーム性のあるモノ、時計タイプのモノなど、星の数程。

しかし「万歩計」と呼ばれるモノの数は限られている。何故なら、「万歩計」は山佐時計器株式会社が発売している製品にしか使われないからだ。そう「万歩計」とは山佐時計器株式会社の登録商標なのだ。「万歩計」開発

話は実に興味深い。昭和39年の東京オリンピックの影響もあって、日本は高度成長期真っ只中の昭和40年。洋食を食べる機会が増え、自動車の需要も増えている中、山佐時計器株式会社は、摂取カロリーが増えているにも関わらず、自動車やエスカレーターの普及により運動量が減少している事に目を付けた。

成人男性の消費カロリー、基礎代謝カロリーの目安として約1500キロカロリー。食生活の変化により、摂取カロリーが2200キロカロリー前後となり、どうしても500キロカロリーが



1 ポケット万歩 NC-900  
希望小売価格 18,900円 (本体価格 18,000円) ※店頭では販売しておりません  
2 ポケット万歩 パワーウォーカー PW-900  
希望小売価格 4,200円 (本体価格 4,000円)  
3 MANPO-METER  
平賀源内をルーツに見る、「万歩メーター」1号機

余剰になってしまふ。1億総デブ化の危機となった時、1日1万歩歩く事により、約300キロカロリー消費できるというデータを見つけ、(財)日本万歩クラブと共に「1日1万歩」を提唱し、歩数を図る計器という事で、江戸時代、平賀源内が日本地図を作る際に作った測量する道具をベースに「万歩メーター」1号機を開発したという。その後、ウォーキングが注目されると同時に「1日1万歩」という言葉も日常的に使われるようになり、「万歩計」は進化していく。昭和62年に電子万歩計を開発。この電子万歩計は今でも厚生労働省が行う国民栄養調査で使われている。まさに肥満への境界線を発明してくれたのである。

進化し続ける「万歩計」の現在はどうなっているのか? という、「ポケット万歩パワーウォーカー」という製品に注目したい。4大機能に加えて、パワーウォーキングモードにすると、1分間に110歩、時速5〜6kmの早歩き状態の時だけの歩数と歩行時間、そして脂肪燃焼量が表示されるのだ。時速5〜6kmで歩く事で有酸素運動が始まるというデータのもと、脂肪燃焼量をはじき出す仕組みだ。もちろん通常モード